

いざ子ども

狂業たはわざなせそ

天地あめつちの 固めし国そ

大倭島根やまとしまねは

藤原仲麻呂(巻二十・四四八七)

この歌に付けられた
題詞と左注によると、
天平宝字元(757)
年11月18日に内裏で催
された宴席において、
当時紫微内相という
官職にあった藤原仲麻
呂(藤原武智麻呂の子)
がこの歌を披露しまし
た。紫微内相とは、光
明皇太后の家政機関で
ある紫微中台の長官
です。紫微中台は、光

明が聖武天皇の皇后で
あった時に家政機関と
して設置された皇后宮
職を改称した組織で、
光明は娘の孝謙天皇の
後見をつとめるため、
この機関を通じて国政
運営に関与しました。
仲麻呂はその長官とし
て、伯母に当たる光明
の後ろ盾を得て権力基
盤を築きました。同年
4月には仲麻呂と関係

やまと
万葉がたり

の深い大炊王(舎人親
王の子)が皇太子に立
てられ、仲麻呂はます
ます権勢を振るうよう
になります。
当時の政界には、こ
のような仲麻呂の台頭
に反発する勢力も存在
しました。その代表が
橘奈良麻呂(橘諸兄の
子)です。同年6月に
反仲麻呂勢力を排除す
るための人事が行われ

たのを機に、奈良麻呂
は反仲麻呂派と密かに
会合を重ねて仲麻呂打
倒計画を立てますが、
その計画は密告により
露見します。仲麻呂は
奈良麻呂の一派を逮捕
し、多数の関係者を肅
清しました。この事件
を「橘奈良麻呂の変」

と呼びます。
奈良麻呂の変の事後
処理が落ち着いた同年
8月、孝謙天皇は改元
して年号を天平宝字と
決めました。改元して
初めての新嘗祭が11
月17日に行われ、翌18
日には恒例により豊
明節会が宮中で催さ

れました。この歌はそ
の席上で仲麻呂が歌っ
たものです。「狂業」
とは、直前に発覚した
奈良麻呂らによるクー
デター計画のことを指
すとみられます。天と
地の神々が固めた国で
ある日本は、たわけた
人々による妄動程度で
はびくともしないの
だ、という仲麻呂の自
信に満ちた思いが、こ
の歌にあふれているよ
うに思います。
(泉立万葉文化館主任
研究員・竹内亮)

【訳】人々よ、たわけた事をしてはいけない。
天と地が固めた国なのだ、やまとの国は。